

平成28年7月26日

## 地域経済産業調査（平成28年4-6月期）結果

### 〈全体の動向〉

今期（4-6月期）の近畿経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。

生産は、半導体やフラットパネル・ディスプレイの製造装置、自動運搬機械等が好調であり、電子部品・デバイスや車載用の蓄電池も堅調に推移するものの、一部工場の製造ライン停止の影響により自動車部品等が減少しており、総じてみれば横ばいとなっている。

設備投資は、製造業では、設備の維持・更新を中心に、一部では市場の需要増に対応するための生産能力増強投資もみられる。また、非製造業では、国内需要掘り起こしのための店舗改装や訪日外国人の増加に対応する投資がみられる。

雇用は、工場・店舗などのパート人材や技術者などの確保が困難であり、依然として人手不足が続いている。新規採用は、毎年継続して一定の採用人数を確保する意向が強い。賃金は、従業員の定着や利益還元を目的に引上げを実施する企業がみられる。

個人消費は、百貨店は衣料品の不振や高額品販売の鈍化などから弱い動きとなっているが、スーパーは飲食料品を中心におおむね堅調。家電は白物家電が堅調だがその他は弱含み。乗用車は、軽自動車燃費不正問題の影響等もあって回復が遅れている。全体として改善の動きに足踏みがみられる。

### 〈個別の動向〉

- （1）生産：横ばい。
- （2）設備投資：持ち直している。
- （3）雇用情勢：改善している。
- （4）個人消費：改善の動きに足踏みがみられる。

### 〈これまでの基調判断の推移〉

	平成27年4-6月	平成27年7-9月	平成27年10-12月	平成28年1-3月	平成28年4-6月
全国	→	→	→	→	→
	一部に弱い動きがみられるが、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるが、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している
近畿	↗	↘	↗	→	→
	緩やかに改善している	緩やかに改善しているものの、一部に弱い動きがみられる	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している

（参考）今回、本調査の対象機関（95）、実施期間（平成28年6月8日～6月28日）

（本件のお問い合わせ先）

近畿経済産業局総務企画部調査課長 奥田

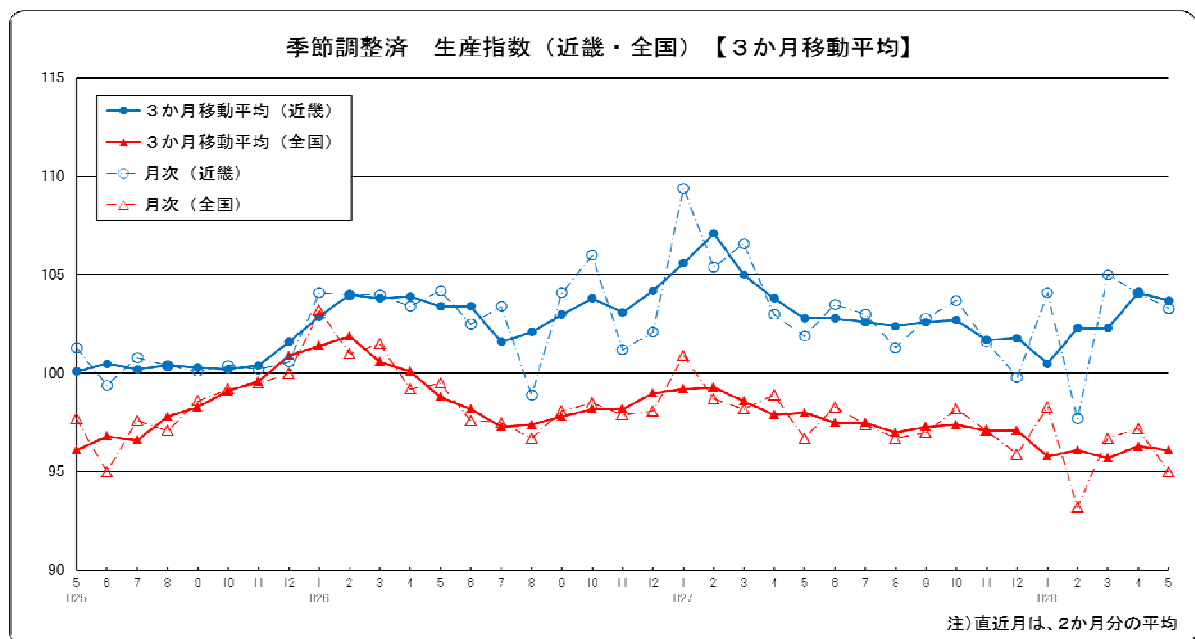
担当：中川、加藤 電話：06-6966-6004

## 生産 ～横ばい～

はん用・生産用・業務用機械は、半導体やフラットパネル・ディスプレイの製造装置、自動運搬機械等が好調。電子部品・デバイスは、中国を中心にスマートフォン向けの伸びが鈍化しているものの引き続き堅調。電気機械は、車載用をはじめとする蓄電池が堅調。輸送機械は、一部工場の製造ライン停止の影響により、自動車部品等が減少。なお、先行きについて、為替変動による受注の減少を懸念する声が聞かれる。

### 【企業の生の声】

- 半導体事業は、前期・前年同期と比べても売上は伸びており、業況は良い。今は歴史的にハイレベルな状況といえる。【生産用機械器具】
- インターネット通販を展開する事業者向けのピッキング・倉庫・配送システム等の受注が好調に推移している。【業務用機械器具】
- 中国を中心にスマートフォンの買い換えが一巡したこともあり伸びが鈍化してきている。ただ、伸びが鈍化してきただけであり、好調であることに変わりはない。【電子部品・デバイス】
- 車載用の蓄電池は、向け先の都合による増減があるが、ならしてみれば適正な水準を維持している。【電気機器】
- ×九州方面の震災の影響により、部品の出荷が数日止まったものの、大きな影響ではない。一方、燃費不正問題により、一部製造ラインが当期完全に停止している。【輸送用機器】（中小）
- ×中国での供給過剰については、中国の高炉メーカーが年明けから粗鋼の減産や値上げの動きがあり、日本メーカーへの引き合いも増えてきたが、3月以降増産に反転。2016年も2015年と同様にかなり厳しいと予想される。【鉄鋼】
- ×業況は悪い。イギリスのEU離脱以来、為替が急激に円高に振れており、輸出企業は厳しい状況である。当然ながら、生産量は減少している。【生産用機械器具】（中小）



(注) 近畿・全国：平成22年基準（平成22年＝100）

データ出所：近畿経済産業局「近畿地域鉱工業生産動向」

## 設備投資 ～持ち直している～

製造業では、設備の維持・更新を中心に、一部では市場の需要増に応えるための生産能力増強投資もみられる。中小製造業では、政策支援を活用した設備投資への意欲がみられる。また、非製造業では、国内需要掘り起こしのための店舗改装や訪日外国人の増加に対応する投資がみられる。

### 【企業の生の声】

- 28年度は、今期よりも設備投資額は増加する見通し。半導体部品関連など伸びている分野を重点的に強化する計画。【電子部品・デバイス】
- 28年度は、27年度以上の投資を行う予定。主な投資の内容は、工場の維持・更新・高度化・金型新調等である。【電気機器】
- 28年度は、前年度比20%増となる見込み。バランスの良い投資を心掛ける。投資内容は、市場の需要増に応える増産投資が中心。【非鉄金属】
- ものづくり補助金が承認され、本格的に設備投資を始める。エネルギー使用合理化等事業者支援補助金にも応募し投資する予定。【繊維工業】(中小)
- 訪日外国人の増加による宿泊施設不足への対応として、従業員用の部屋を改装して客室を増やし、シングル部屋をツインに変更するというリノベーションを行う。  
【宿泊業】
- 今年度は昨年度より設備投資額を増やす予定。既存店の全面改装を進めていく。新店よりも既存店改装の方が即効性があり、客数も2割ぐらゐの増加が見込める。  
【各種小売業】
- △大きな変化なし。日本国内での工場の稼働率は高いが新規工場を建設するまでではなく、老朽化した設備の修繕に留める計画。【業務用機械器具】
- △設備投資額の上限は設けておらず、良い物件があれば積極的に出店していきたい。  
【飲食店】
- ×28年度は、自動倉庫を建設する予定であったが、現在は先行き不透明感もあり、延期して再検討している。【その他卸売業】(中小)

## 全国企業短期経済観測調査

(前年度(前年同期)比:%)

前年度 (前年同期)比	近 畿						全 国					
	2015年度			2016年度 (計画)			2015年度			2016年度 (計画)		
	上期	下期		上期(計画)	下期(計画)		上期	下期		上期(計画)	下期(計画)	
<b>全産業</b>	▲ 4.0	▲ 7.0	▲ 1.5	6.4	12.5	1.6	5.0	4.2	5.6	0.4	9.4	▲ 6.6
製造業	5.5	10.1	1.9	12.0	19.8	5.2	9.1	7.1	10.7	6.0	18.8	▲ 3.8
大企業	6.1	12.5	1.0	13.0	17.9	8.6	8.4	9.9	7.3	12.8	22.8	4.9
中堅企業	▲ 0.8	▲ 8.4	5.4	14.3	38.1	▲ 2.6	9.3	9.4	9.1	5.8	14.4	▲ 1.0
中小企業	8.3	3.3	11.6	▲ 15.7	25.2	▲ 41.1	11.5	▲ 4.6	24.9	▲ 17.8	7.2	▲ 33.5
非製造業	▲ 9.5	▲ 16.5	▲ 3.5	2.7	7.2	▲ 0.7	2.9	2.7	3.1	▲ 2.5	4.6	▲ 8.0
大企業	▲ 10.8	▲ 18.6	▲ 4.0	1.7	6.8	▲ 2.1	1.0	▲ 1.4	2.9	2.7	8.6	▲ 1.6
中堅企業	▲ 5.3	2.7	▲ 10.0	20.8	11.1	27.2	8.3	5.8	10.2	▲ 10.2	1.2	▲ 18.5
中小企業	20.2	▲ 2.2	46.5	▲ 25.9	7.9	▲ 52.6	5.2	14.2	▲ 1.9	▲ 13.5	▲ 4.5	▲ 21.6

データ出所: 日本銀行(含む 土地投資額)

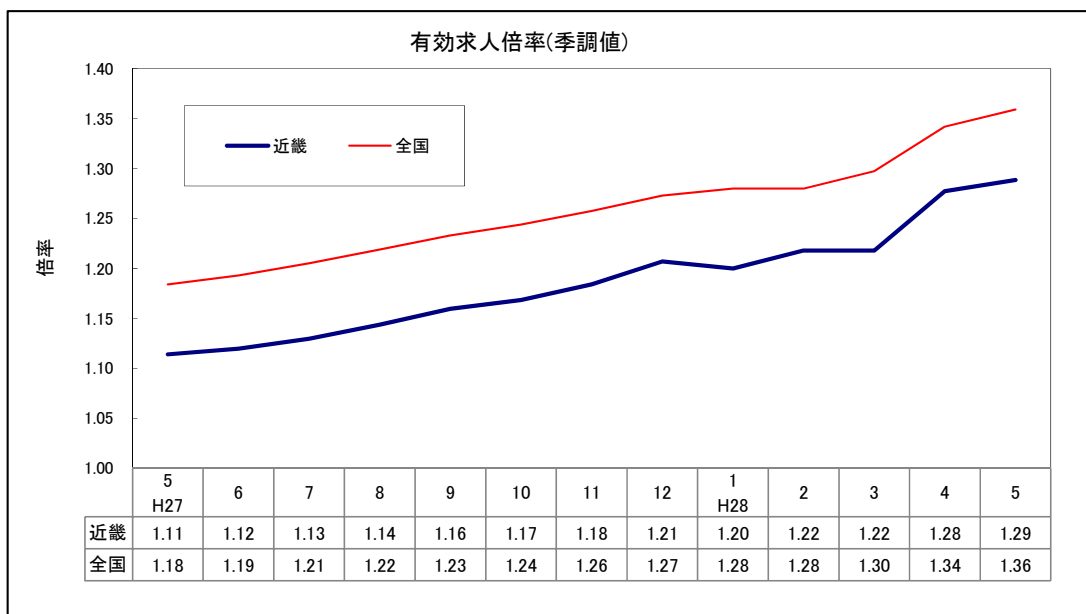
(大企業: 資本金10億円以上、中堅企業: 同1億円~10億円未満、中小企業: 同2千万円~1億円未満) 2016/7/1公表

## 雇用情勢 ～改善している～

依然として人手不足が続いている。工場や店舗などのパート人材、有資格者・技術者の確保が困難との声が多く聞かれる。新規採用は、毎年継続して一定の採用人数を確保する意向が強い。賃金は、従業員の定着や利益還元を目的に引上げを実施する企業がみられ、ベースアップによる賃上げを行うとの声も聞かれる。

### 【企業の生の声】

- ・ 製造部門はパートが多いが、募集で人が集まらず、派遣を活用している。【電気機器】（中小）
- ・ スーパーではパートが集まらない。取り合いになっている。【各種小売業】
- ・ 人手不足が続いており、店長候補となる社員のみならずパートの確保にも苦勞している。【飲食店】
- ・ 営業・技術職について不足感が強く特に三大都市圏は早急に対応する必要がある。【総合工事業】
- ・ 技術者や業界に明るい者を探しているが、大手メーカーに人材を取られて集められない。技術系派遣社員を正社員登用して何とかしのいでいる。【生産用機械器具】
- ・ ドライバーの確保は、いまだ厳しい状況。途中で辞めることも少なくない。【道路貨物運送業】
- ・ 新規採用は例年どおり。従来より景気に左右されることなく一定数の採用を継続している。【業務用機械器具】
- ・ 技術の伝承が必要と考えており、平成 29 年採用についても 1 名採用する予定。【生産用機械器具】（中小）
- ・ ベースアップ・定期昇給等含め、月例引き上げを実施。従業員のモチベーションアップで生産性向上、業績拡大につなげる。【繊維工業】
- ・ 賃上げできるほど業績が上がっていないが、従業員のモチベーション向上のためには必要。【生産用機械器具】（中小）
- ・ 業績が低迷しており、賃金より従業員の雇用維持を優先するため、賃上げは実施していない。【パルプ・紙】



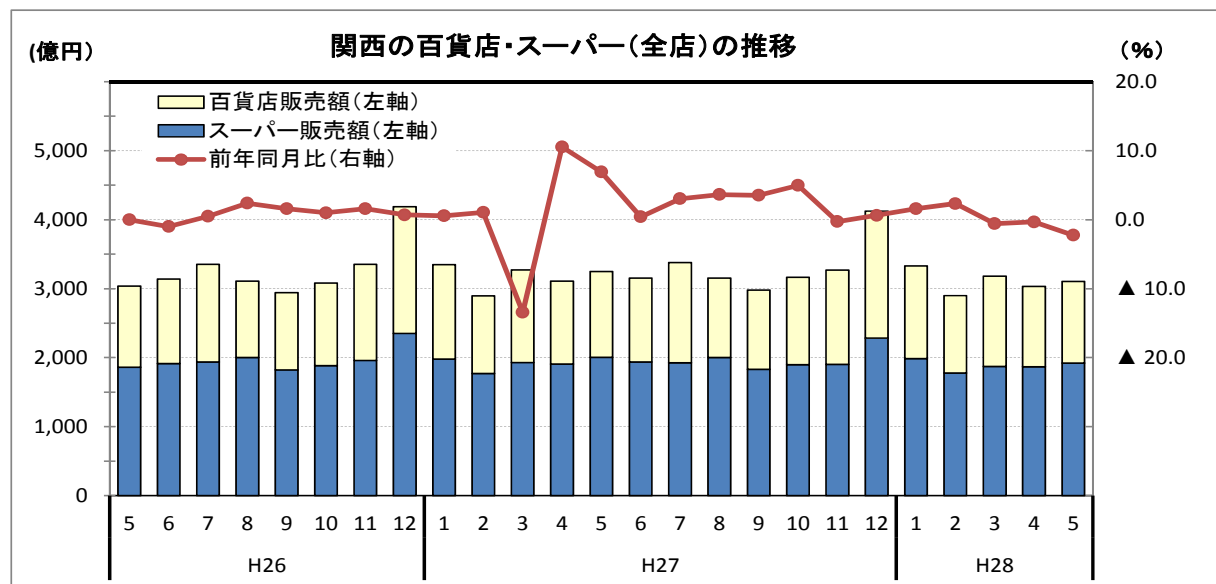
データ出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

## 個人消費 ～改善の動きに足踏みがみられる～

百貨店は、天候不順等により衣料品の不振が続くとともに、高額品販売が鈍化していることなどから弱い動きとなっている。スーパーは、惣菜等が好調である食料品を中心におおむね堅調。家電は、白物家電が堅調だがその他は弱含み。乗用車は、軽自動車燃費不正問題の影響等もあって回復が遅れているが、普通車は新型車効果もあり堅調。旅行は、引き続き政情不安等から海外が減少。レジャー施設は好調を維持。外国人観光客による消費については、高額品の購入が減少し、化粧品等消耗品へのシフトがみられる。

### 【企業の生の声】

- 稼働率は、第1四半期は80%の見込み（スイートルーム等の特別な客室を除くと、ほぼ100%）。客室が足りないというトレンドは続くと思う。【宿泊業】
- △国内中間層と富裕層の動向はさほど変わっていない。中間層は悪い状況がずっと続いている。将来に対する不安が拭えず、生活を潤すための消費は後回しになっている。【各種小売業】
- △中国における関税規制により高額品の購入が減少し、消耗品のシェアが拡大しているため、一人当たりの購入単価が前年比80%程度にとどまっている。ただし、件数は前年比1.3倍に増加している。【各種小売業】
- △昨年と比べると最高気温が低く、暑い日が持続しないことなどが影響したためか、飲料、麺つゆ、乾麺など夏物商品の売れ行きが良くなかった。総菜はニーズがあり強化している。【各種小売業】
- △燃費不正問題の影響により軽自動車は販売減となったが、そのような問題がなければ、昨年よりやや増か同水準の販売を維持できたと考えており、そこまで悲観する結果ではない。【その他事業サービス業】
- ×エアコンは、5月後半は失速したが6月は再び伸び始めた。テレビは前年を下回っており、リオオリンピック関連も盛り上がり欠けている。【機械器具小売業】
- ×海外旅行は引き続き低調。先日もアメリカで銃乱射事件が発生したが、こういう事件があると該当地域だけでなく、海外旅行そのものを敬遠する風潮がある。【その他事業サービス業】



データ出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」